



体力維持のために週1回、テニススクールに通っている是永大輔院長。
学生時代は野球部に所属していたそうだ

4月に院長就任 「職員との5つの約束」

中津市民病院 是永大輔 院長

大分県立高田高校卒業 1980 九州大学医学部卒業 同附属病院医員(第二外科研修医)
1987 同助手(第二外科) 1991 同講師(第二外科) 福岡市民病院外科部長 1996 福岡岡科
大学外科学教授 2003 福岡市民病院医療主幹(外来診療総括担当) 2008 同副院長
2016 中津市立中津市民病院院長
2008~2016 九州大学医学部臨床教授併任 2009~ 熊本大学医学部医学科臨床教授併任

熊本地震への対応

4月の熊本地震の時私は出張のため大阪にいました。当院のDMATの第一陣は、その日のうちに被災地にかけつけ、救護活動に従事しました。私も急ぎよ戻りましたが、しっかりと機能していたので、とても頼もしく感じましたね。



敷地内にある太陽光発電システム。
発電された電力は、すべて院内で活用されている

新病棟の建設

2年後の秋から冬の完成をめどに新病棟を建設予定です。すでに予算は確保していて、現在、基本設計を練っている最中です。

新病棟は個室中心の女性病棟や緩和病棟などの建設を予定しています。また現在の講堂は、手狭になつてきたので、新病棟内に講堂を造ります。

各種研究会や市民公開講座などをできる機能的な物にし、災害時には避難スペースとして活用します。

生き残りをかけて

当院は大分、北九州、福岡などの都市に囲まれています。職員確保に関して、不利な立地であることは否めません。

NHKの大河ドラマ「真田丸」では真田一族が群雄割拠の戦国時代で

生き残りを図る姿が描かれています。私たちも同様に医療界の乱世を生き残つていかなければなりません。

いかに特色を打ち出し、生き残つて市民のために良質な医療を提供するか、また、いかに医療従事者の満足を得られる病院にするか。やりがいがありますね。

恩師の存在

私は九州大学第二外科出身です。井口潔教授、杉町圭蔵教授と現教授の前原喜彦先生から多くのことを教わりました。特に前原先生は、3年先輩で、同じ研究室に所属していたこともあり、弟のように可愛がってもらいましたね。

3人に共通しているのは、己に厳しいところです。そういう人でないと教授は務まらないと思えますし、日本の医療を牽引していくことはできないでしょう。私はこの3人の背中を見て成長させてもらったと思っています。

中津市民病院は大分県北・福岡県東部(京築)地区、24万人医療圏の中核病院。
今年の4月に就任した是永大輔院長に今後の抱負を聞いた。

「患者ファースト」の医療を

私は国東半島の豊後高田市出身ですが、大学時代から、ほとんど福岡で過ごしてきました。今回、28年振りに郷里である大分県に戻ってきて、郷里の医療を担う重責への緊張感とともに、恩返しができるという喜びもあります。

当院の医療圏は豊後高田市、宇佐市、中津市、福岡県の京築・豊前地区、行橋の一部など広大で、

われわれは地域唯一の基幹病院です。地域住民が最初に来る病院であり、最後の砦(とりで)でもあります。多岐に渡って求められることが多い病院なのです。

小池百合子・東京都知事は「都民ファースト」という言葉を強調しています。私も「患者ファースト」が大事だと思っています。職員には患者さんあってこそその病院であつて、患者さんあつての医療従事者であることを忘れてほしくありません。当院は市民の税金を投じたかけがえのない財産です。それをいかに市民に還元していくかが重要です。

私は職員と五つの約束を交わしています。①職場を愛し、明るい環境づくりに努めること②感謝の気持ちを持たずに責任を果たすこと③患者さんを大切にすること④救急隊や医師会に丁寧に対応すること⑤若い人が集まる努力を惜しまないことです。

心臓血管外科を開設

本年8月に心臓血管外科を開設しました。今月には循環器内科と心臓外科による専門的医療チームのもとで第一例目の開心術を実施しました。

これまで、この地域には心臓血管外科がありませんでした。そのため患者さん

救急の充実のために

急性期病院において救急の充実が欠かせません。当院では救急のホットライン体制を構築しました。それにより救急搬送中に車内から医師に連絡し、即座に対応できる体制が整いました。

また院内で患者さんのトリアージをすることで、当直の医師に負担がかからないようになりました。

中津市立中津市民病院
大分県中津市下池永173番地
☎0979-22-2480
http://www.city-nakatsu.jp/hospital/

